

2026年度入試

# 入学試験問題集

【応用心理学部 健康・スポーツ心理学科】



東京成徳大学

TOKYO SEITOKU  
UNIVERSITY

## 目 次

総合型選抜 9月入試 1次選考	1
総合型選抜 9月入試 2次選考 レポート課題	2
総合型選抜 10月入試	3
総合型選抜 12月入試	4
指定校推薦入試 1期	5
指定校推薦入試 2期	7
併願型学校推薦入試 1期	8
併願型学校推薦入試 2期	9
スポーツ特待生入試	10
併設校入試（専願）1次選考	11
併設校入試（専願）2次選考 レポート課題	12
出題意図・解答例	13

※社会人入試、帰国生入試、編入学試験は志願者がいなかったため実施しておりません。

「一般選抜 A 日程・B 日程」の問題は、  
「2026 年度入試問題集 一般選抜  
A 日程入試・B 日程入試・C 日程入試」  
に掲載しています。

# ●総合型選抜 9月入試 1次選考

## 【小論文】（試験時間：60分）

問題 以下に掲載する図表は、厚生労働省が実施した「令和6年 労働安全衛生調査（実態調査）」の結果の一部である。この調査は、会社や店舗などの事業所（組織）における労働災害などの発生防止対策や、そこで働く労働者（個人）に対して仕事や職業生活における不安やストレス等の実態を聞くために国が毎年行っている調査である。

この図表のデータは、個人の労働者からの回答を集計したものである。なお、令和6年の調査対象数は18,533名、有効回答数は8,596名（有効回答率：46.4%）であった。この図表の内容を踏まえて、以下の問いに答えなさい。

図表1 仕事や職業生活に関する強い不安、悩み、ストレスの有無及び内容（主なもの3つ以内）別労働者割合

区分	労働者計 <sup>1)</sup>	強い不安、悩み、ストレスの内容（主なもの3つ以内）											強い不安、悩み、ストレスと感ずる事柄がない
		強い不安、悩み、ストレスと感ずる事柄がある <sup>2)</sup>	仕事の量	仕事の質	対人関係（セクハラ・パワハラを含む。）	役割・地位の変化等（昇進・昇格、配置転換等）	仕事の失敗、責任の発生等	顧客、取引先等からのクレーム	事故や災害の体験	雇用の安定性	会社の将来性	その他の事柄	
令和6年 合計 <sup>4)</sup>	100.0	68.3 (100.0)	(43.2)	(26.4)	(26.1)	(19.8)	(36.2)	(20.7)	(3.5)	(11.2)	(22.2)	(10.8)	31.1
(年齢階級)													
20歳未満	100.0	28.7 (100.0)	(23.4)	(14.8)	(15.8)	(5.5)	(72.1)	(0.6)	(-)	(3.7)	(9.4)	(31.4)	71.3
20～29歳	100.0	64.9 (100.0)	(40.7)	(21.0)	(30.8)	(15.2)	(38.7)	(26.6)	(0.8)	(10.7)	(27.2)	(11.2)	34.6
30～39歳	100.0	73.3 (100.0)	(42.2)	(20.7)	(28.1)	(19.8)	(42.7)	(27.6)	(2.0)	(9.7)	(32.2)	(9.9)	24.7
40～49歳	100.0	73.0 (100.0)	(50.8)	(28.0)	(22.5)	(27.7)	(35.0)	(21.4)	(3.0)	(8.5)	(22.5)	(5.8)	28.7
50～59歳	100.0	89.4 (100.0)	(36.9)	(31.8)	(24.2)	(18.1)	(32.7)	(13.9)	(5.4)	(14.7)	(15.1)	(14.7)	30.2
60歳以上	100.0	53.2 (100.0)	(46.6)	(28.6)	(36.2)	(7.6)	(28.8)	(13.7)	(8.0)	(20.8)	(10.5)	(15.0)	48.7
(性)													
男	100.0	69.8 (100.0)	(43.9)	(25.3)	(23.4)	(22.3)	(40.1)	(22.5)	(5.0)	(9.7)	(20.3)	(10.8)	29.2
女	100.0	68.6 (100.0)	(42.4)	(27.6)	(28.2)	(17.0)	(31.8)	(18.7)	(1.8)	(13.0)	(24.4)	(11.0)	33.1
(就業形態)													
正社員	100.0	74.6 (100.0)	(45.0)	(25.4)	(26.7)	(22.7)	(37.7)	(21.3)	(3.4)	(8.8)	(23.3)	(11.5)	24.9
契約社員	100.0	73.0 (100.0)	(47.0)	(38.2)	(18.6)	(3.5)	(31.3)	(8.5)	(8.2)	(32.1)	(38.8)	(5.8)	26.8
パートタイム労働者	100.0	43.5 (100.0)	(31.7)	(26.9)	(23.4)	(12.2)	(32.0)	(26.6)	(1.6)	(8.6)	(9.4)	(7.9)	54.6
派遣労働者	100.0	54.1 (100.0)	(31.3)	(18.1)	(36.9)	(5.7)	(22.7)	(9.4)	(1.5)	(54.7)	(5.5)	(15.0)	45.9
令和5年 合計	100.0	82.7 (100.0)	(39.4)	(27.3)	(29.6)	(15.8)	(39.7)	(26.6)	(2.3)	(9.6)	(22.2)	(13.2)	16.7

注：1) 「労働者計」には、強い不安、悩み、ストレスと感ずる事柄の有無不明が含まれる。  
 2) 令和6年は令和5年より趣旨明確化の観点から本設問の形式を変更したため、数値の比較には留意が必要である。詳細は調査の概要「9 調査結果利用上の注意」(4)参照。(2頁)  
 3) ( )は、「強い不安、悩み、ストレスと感ずる事柄がある」労働者を100とした割合である。  
 4) 「合計」には、「年齢階級」「性」「就業形態」の各区分の不明が含まれる。

出典 厚生労働省 令和6年 労働安全衛生調査（実態調査）結果の概要  
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/r06-46-50b.html>

- 問1 年齢階級が20～29歳の若年労働者は、他の年齢階級の労働者に比べてどのような特徴があるか。「図表から理解できること」について説明しなさい。(200字以内)
- 問2 もし、あなたが、20～29歳の若年労働者の職業ストレス対策を立案することになったら、どのような対策を提案するか説明せよ。なお、あなた個人の意見や感想ではなく、図表から読み取れる情報を踏まえながら、注目した問題点や、提案する取り組みの内容、それによって期待できる効果について具体的かつ客観的に述べること。(600字以内)

# ●総合型選抜 9月入試 2次選考

## 【レポート課題】

あなたが住んでいる地域の自治体（市区町村）で実施されている「健康分野」や「スポーツ分野」に関する施策について、以下の2点を中心にまとめてください。

（1）健康またはスポーツ施策の現状（約500字）

自治体ホームページや公開されている計画文書（例：『基本構想』『総合計画』など）を参考に、現在どのような取り組みが行われているか、具体例も交えて説明してください。

（2）今後の課題（約300字）

現状を踏まえ、今後取り組むべき課題や改善点について、あなた自身の考えを述べてください。

# ●総合型選抜 10月入試

## 【小論文】（試験時間：60分）

問い

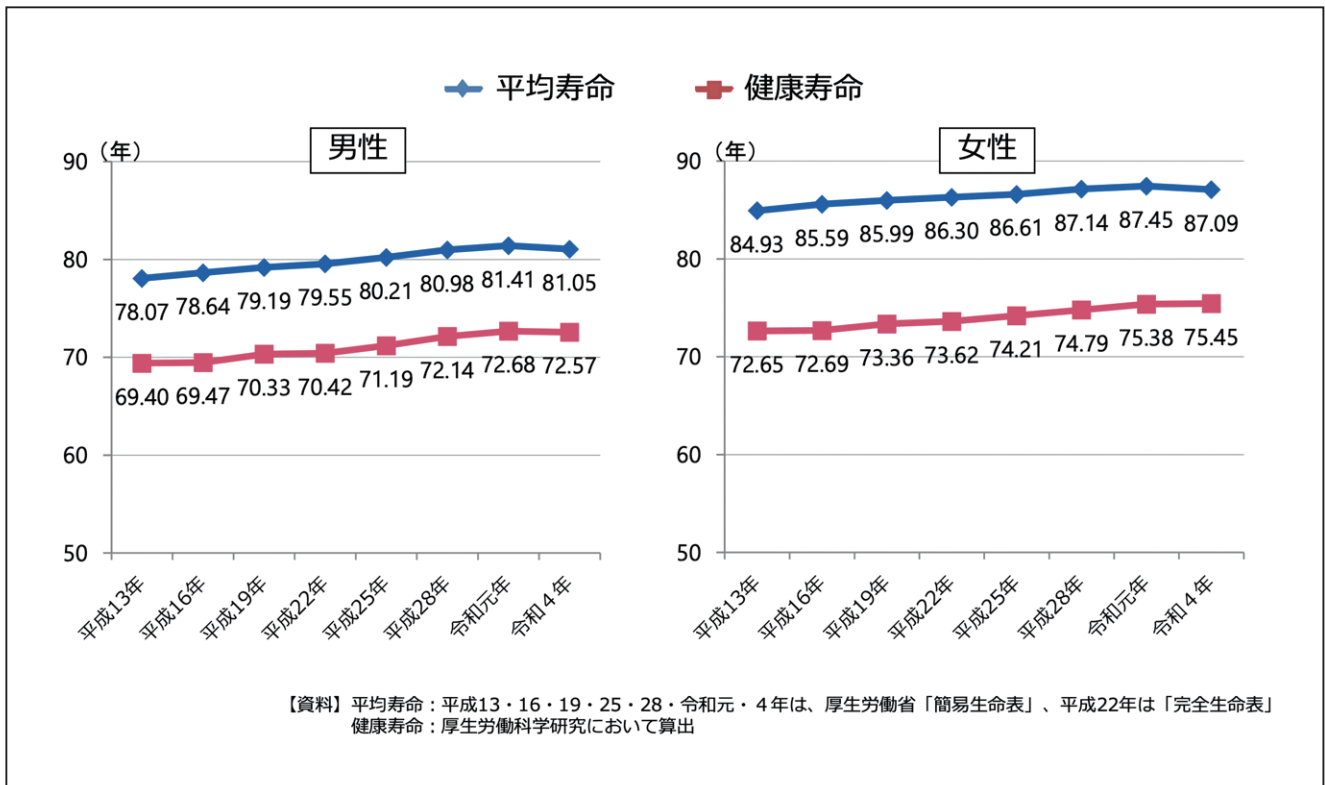
『学び』と『勉強』はしばしば混同されがちであるが、これらは本質的に異なる目的や手段を持つものである。以下の指示に沿って、あなた自身の経験をもとに具体的な状況や例を交えながら800字以内であなたの考えを述べなさい。

1. 『学び』と『勉強』の特徴を考察し、それぞれがどのような目的や手段によって成り立っているか、その違いを述べなさい。
2. あなたにとって『学び』がどのような価値を持つか、またそれが社会や人生にどのような影響を与えるかについて論じなさい。その際、学びの価値が自己成長と社会的貢献の両方、あるいはどちらか一方に対してどのように寄与するかについて触れること。

# ●総合型選抜 12月入試

## 【小論文】（試験時間：60分）

以下の図は、日本における男性・女性の「平均寿命」と「健康寿命」を示したものである。図を読み取り以下の設問に答えなさい。



\* 健康寿命：日常生活制限のない期間

出典 厚生労働省「健康寿命の令和4年値について」

〈 <https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/001363069.pdf> 〉

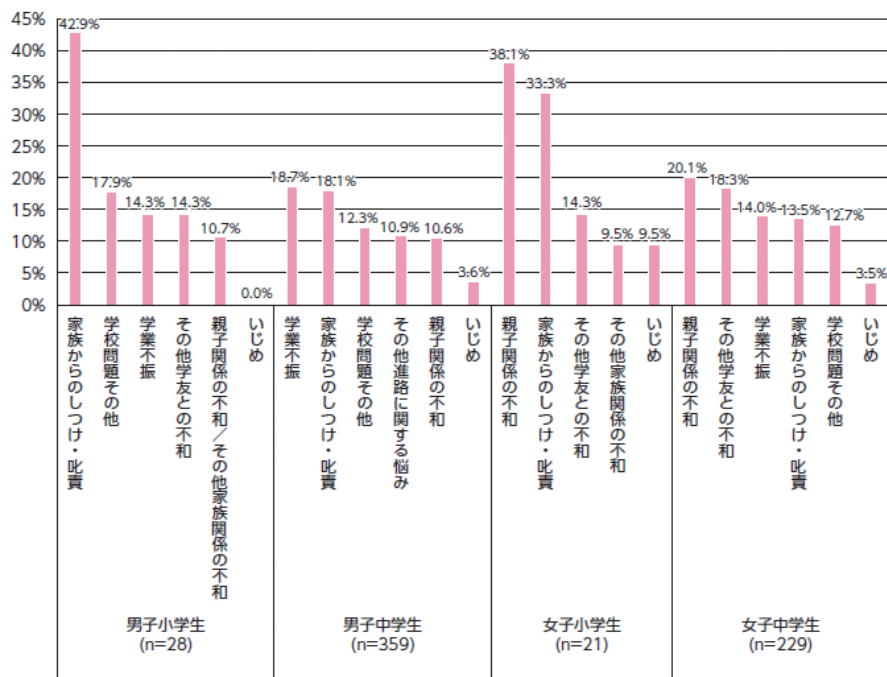
### 【設問】

この図から読み取れる男女差・各年度の推移などについて説明をし、平均寿命と健康寿命の差が示す社会的課題について述べなさい。また、健康寿命を延ばすために、個人と社会が行うべき取り組みについて、あなたの考えを論じなさい。（800字以内）

# ●指定校推薦入試 1 期

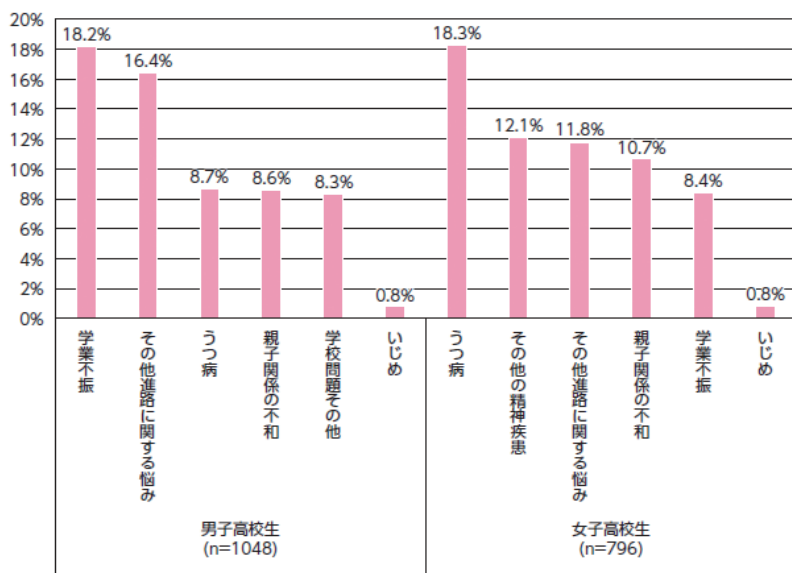
## 【小論文】（試験時間：60分）

日本において、子どもの自殺が深刻な社会問題となっている。世界的に見ても、日本の子どもの自殺率は高いことが知られている。以下は、厚生労働省が作成した令和元年自殺対策白書の一部を抜粋したもので、警察庁の自殺統計に基づいて小中高生の自殺の原因・動機の割合が図示されている。図 1・2 を参照して、設問に答えなさい。



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

図 1. 小学生、中学生における自殺の原因・動機の計上比率



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

図 2. 高校生における自殺の原因・動機の計上比率

注 1) 計上比率とは、ある特定の項目が、全体の合計の中でどのくらいの割合を占めているかを示す数字を指す。

注 2) 図の ( ) 内の「n」は、人数を意味する。

設問. 小学生・中学生・高校生の自殺の原因について、共通点と相違点を図表から読み取り記述しなさい。その上で、相違点を踏まえた支援方法を具体的に述べなさい。なお、性差の検討は求めない（800字以内）。

出典：令和元年自殺対策白書 第2章自殺対策の基本的な枠組みと若者の自殺対策の取組 第3節若年層の自殺をめぐる状況  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/seikatsuhogo/jisatsu/jisatsuhakusyo2019.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/jisatsu/jisatsuhakusyo2019.html)

# ●指定校推薦入試 2 期

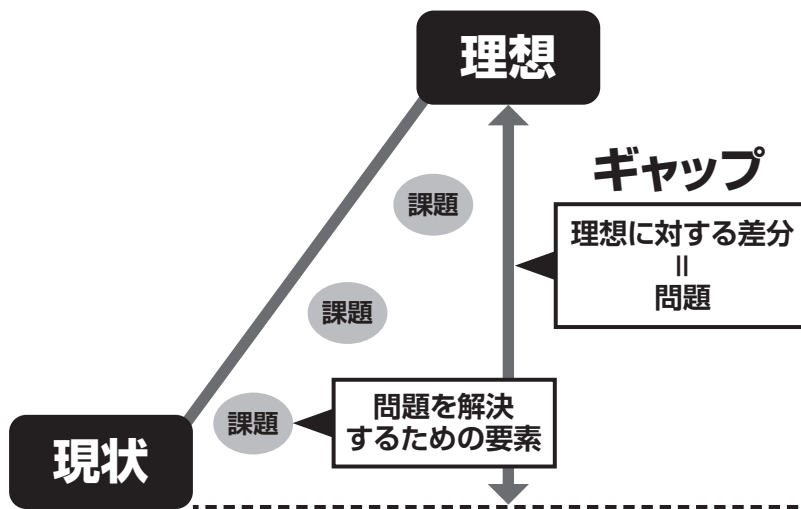
## 【小論文】（試験時間：60 分）

『スポーツコーチング解体新書』において、著者である今田氏は、問題とは「現状と理想のギャップ」であり、課題とは「その問題を解決するために取り組むべき点」であると説明しています。下図における「理想」を「私の将来の夢」と置き換えて、以下の設問に答えなさい。

### 【設問】

将来の夢を実現するための「大学生生活」について、以下の①～③の項目に基づき論述しなさい。（800 字以内）

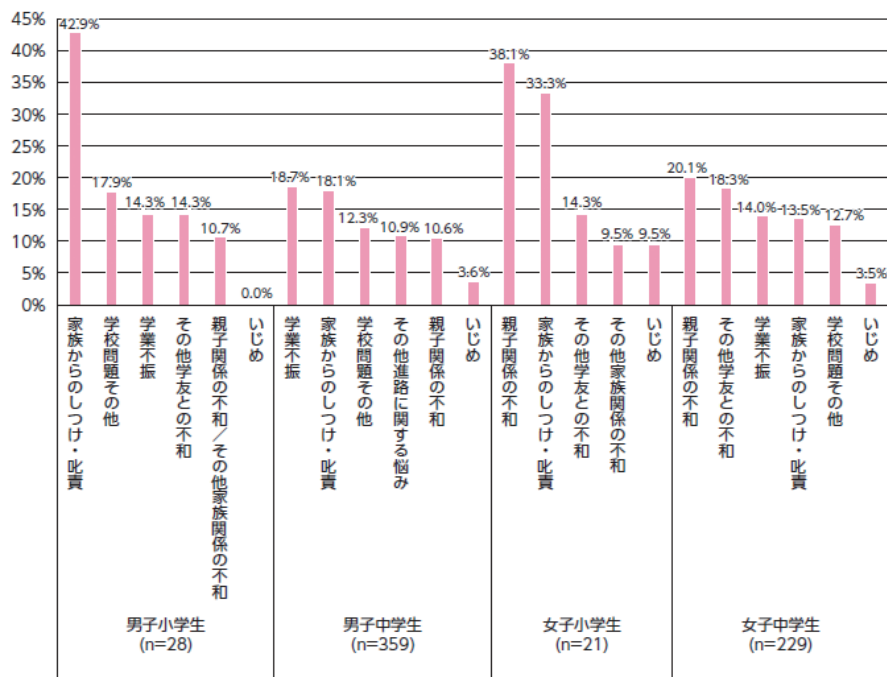
- ① あなたの将来の夢を具体的に示すこと
- ② その夢の実現に向け、現在のあなたに不足している「問題」を具体的に挙げること
- ③ 上記の「問題」を解決するために、大学生生活で取り組むべき「課題」を具体的に示すこと（課題は 2 つ以上）



# ●併願型学校推薦入試 1 期

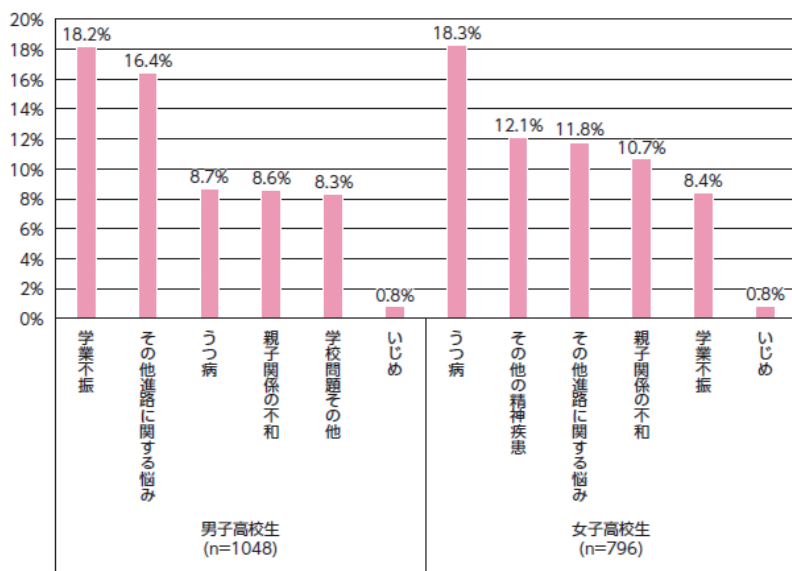
## 【小論文】（試験時間：60分）

日本において、子どもの自殺が深刻な社会問題となっている。世界的に見ても、日本の子どもの自殺率は高いことが知られている。以下は、厚生労働省が作成した令和元年自殺対策白書の一部を抜粋したもので、警察庁の自殺統計に基づいて小中高生の自殺の原因・動機の割合が図示されている。図1・2を参照して、設問に答えなさい。



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

図1. 小学生、中学生における自殺の原因・動機の計上比率



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

図2. 高校生における自殺の原因・動機の計上比率

注1) 計上比率とは、ある特定の項目が、全体の合計の中でどのくらいの割合を占めているかを示す数字を指す。

注2) 図の( )内の「n」は、人数を意味する。

# ●併願型学校推薦入試 2 期

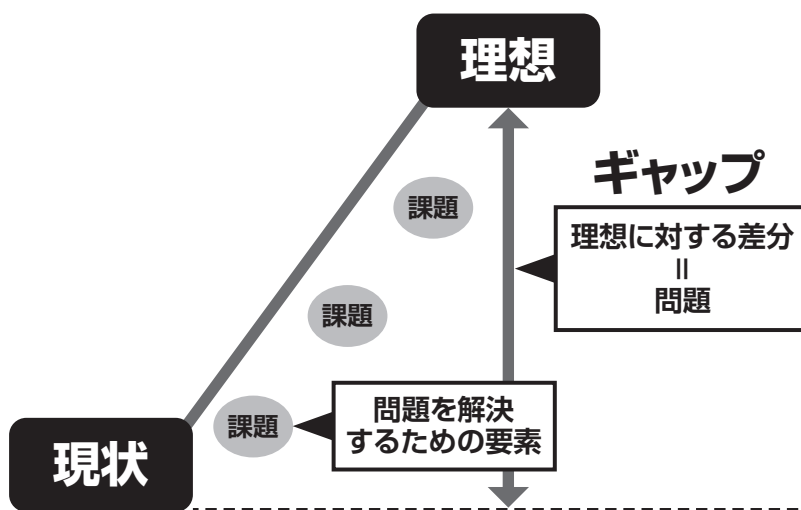
## 【小論文】（試験時間：60 分）

『スポーツコーチング解体新書』において、著者である今田氏は、問題とは「現状と理想のギャップ」であり、課題とは「その問題を解決するために取り組むべき点」であると説明しています。下図における「理想」を「私の将来の夢」と置き換えて、以下の設問に答えなさい。

### 【設問】

将来の夢を実現するための「大学生生活」について、以下の①～③の項目に基づき論述しなさい。（800 字以内）

- ① あなたの将来の夢を具体的に示すこと
- ② その夢の実現に向け、現在のあなたに不足している「問題」を具体的に挙げること
- ③ 上記の「問題」を解決するために、大学生生活で取り組むべき「課題」を具体的に示すこと（課題は 2 つ以上）



# ●スポーツ特待生入試

## 【小論文】（試験時間：60分）

以下の文章を読んで、次の設問に答えなさい。

大学でスポーツを続けることは、高校までの競技経験の延長に見えて、実際にはより多面的な取り組みを必要とする。競技力の向上だけでなく、学業との両立や自己管理、そしてスポーツをどう理解し、どのような姿勢で関わるのかといった視点が求められるからである。大学では、スポーツを経験としてだけでなく、学問の対象として捉えるため、これまでに当然とってきた考え方が改めて問い直される場面が増えるのである。

例えば、競技の現場には「努力すれば必ず伸びる」「とにかく集中すればパフォーマンスは上がる」といった直感的な信念が根強く残っている。心理学者のペイロックは、こうした素朴な理解がときに逆効果を生むことを指摘している。特に熟練者の場合、強いプレッシャーの場面で「技術に意識を向けすぎる」ことは自動化された運動スキルの発揮を阻害し、いわゆる“力み”を引き起こす（Beilock, 2015）。また、運動学習研究者ウルフらは注意と運動の学習やパフォーマンスの関係性を調べた一連の実験から、「集中＝一点に注意を絞る」という一般的なイメージとは異なり、状況に応じて注意の幅を切り替える柔軟性こそが、高いパフォーマンスに結びつくことを指摘している（Wulf & Lewthwaite, 2021）。

このように、大学で学ぶスポーツに関する科学的知見は、競技者が無意識に抱く“正しそうで実は正確でない”思い込みを問い直す役割を果たす。自己流や感覚だけでは改善が難しい局面で、データや理論が介入することでブレークスルーが生まれることは少なくない。

さらに、スポーツは身体能力の発揮という側面だけではなく、社会的・倫理的側面を持つ営みでもある。スポーツ哲学者のアーノルドは、スポーツの価値は「勝敗」や「技能」のみにあるのではなく、行為者がどのような姿勢でスポーツに関わるかにあると述べている（Arnold, 1997）。大学スポーツでは、競技力向上に加えて、規律の遵守、チーム内外でのコミュニケーション、自己管理、そして学業との両立が求められる。

実際、大学生アスリートは競技に熱心になるあまり、学業が後回しになりやすい傾向が指摘されている。高峰（2010）は、大学生アスリートの多くが「学業より競技を優先したい」と考え、さらには「勉強しなくても卒業できる」と捉えている学生までもが一定数存在していることを報告している。また、荒井ら（2018）は、こうした姿勢が単位不足や学習意欲の低下につながり、大学生生活の充実や将来のキャリア形成に影響する可能性を指摘している。

大学でスポーツを続けるという選択は、単に「上手くなる」ためだけのものではない。自らの思い込みを学問によって検証し、競技と学業をともに成立させるための生活管理を行い、スポーツを通して自らの価値観や行動原理を問い直す。こうした過程を引き受ける覚悟の有無が、大学スポーツの意味を決定づけるのである。

### 参考文献

- 荒井弘和・深町花子・鈴木郁弥・榎本恭介（2018）. 大学生アスリートのスポーツ・ライフ・バランスに関連する要因-デュアルキャリアの実現に向けて スポーツ産業学研究, 28 (2) , 149-161.
- Arnold, P. (1997) . *Sport, ethics and education*. Bloomsbury Publishing.
- Beilock, S. (2015) . *How the body knows its mind: The surprising power of the physical environment to influence how you think and feel*. Simon and Schuster.
- 高峰修（2010）. 体育会学生の大学・競技生活とキャリア意識に関する調査報告 明治大学教養論集, 452, 23-38.
- Wulf, G., & Lewthwaite, R. (2021) . Translating thoughts into action: Optimizing motor performance and learning through brief motivational and attentional influences. *Current Directions in Psychological Science*, 30 (6) , 535-541.

### 設問

課題文では、大学でスポーツを続けることが多面的な意義を持つことが示されている。課題文の内容を簡潔に要約した上で、そこに挙げられた論点を踏まえ、あなたが大学でスポーツに取り組む際に重要だと考える姿勢や価値観について、あなた自身の経験等にも触れながら 800 字で論じなさい。

# ●併設校入試（専願）1次選考

## 【小論文】（試験時間：60分）

問題 以下に掲載する図表は、厚生労働省が実施した「令和6年 労働安全衛生調査（実態調査）」の結果の一部である。この調査は、会社や店舗などの事業所（組織）における労働災害などの発生防止対策や、そこで働く労働者（個人）に対して仕事や職業生活における不安やストレス等の実態を聞くために国が毎年行っている調査である。

この図表のデータは、個人の労働者からの回答を集計したものである。なお、令和6年の調査対象数は18,533名、有効回答数は8,596名（有効回答率：46.4%）であった。この図表の内容を踏まえて、以下の問いに答えなさい。

図表1 仕事や職業生活に関する強い不安、悩み、ストレスの有無及び内容（主なもの3つ以内）別労働者割合

区分	労働者計 <sup>1)</sup>	強い不安、悩み、ストレスの内容（主なもの3つ以内）												強い不安、悩み、ストレスと感ずる事柄がない		
		強い不安、悩み、ストレスと感ずる事柄がある <sup>2)3)</sup>	仕事の量	仕事の質	対人関係（セクハラ・パワハラを含む。）	役割・地位の変化等（昇進・昇格、配置転換等）	仕事の失敗、責任の発生等	顧客、取引先等からのクレーム	事故や災害の体験	雇用の安定性	会社の将来性	その他の事柄				
令和6年																(単位:%)
合計 <sup>4)</sup>	100.0	68.3 (100.0)	(43.2)	(26.4)	(26.1)	(19.8)	(36.2)	(20.7)	(3.5)	(11.2)	(22.2)	(10.8)	31.1			
(年齢階級)																
20歳未満	100.0	28.7 (100.0)	(23.4)	(14.6)	(15.8)	(5.5)	(72.1)	(0.6)	(-)	(3.7)	(9.4)	(31.4)	71.3			
20～29歳	100.0	64.9 (100.0)	(40.7)	(21.0)	(30.8)	(15.2)	(38.7)	(26.6)	(0.8)	(10.7)	(27.2)	(11.2)	34.6			
30～39歳	100.0	73.3 (100.0)	(42.2)	(20.7)	(28.1)	(19.8)	(42.7)	(27.6)	(2.0)	(9.7)	(32.2)	(9.9)	24.7			
40～49歳	100.0	73.0 (100.0)	(50.8)	(28.0)	(22.5)	(27.7)	(35.0)	(21.4)	(3.0)	(8.5)	(22.5)	(5.8)	28.7			
50～59歳	100.0	69.4 (100.0)	(36.9)	(31.8)	(24.2)	(18.1)	(32.7)	(13.9)	(5.4)	(14.7)	(15.1)	(14.7)	30.2			
60歳以上	100.0	53.2 (100.0)	(46.6)	(28.6)	(36.2)	(7.6)	(28.8)	(13.7)	(8.0)	(20.8)	(10.5)	(15.0)	48.7			
(性)																
男	100.0	69.8 (100.0)	(43.9)	(25.3)	(23.4)	(22.3)	(40.1)	(22.5)	(5.0)	(9.7)	(20.3)	(10.8)	29.2			
女	100.0	66.6 (100.0)	(42.4)	(27.6)	(28.2)	(17.0)	(31.8)	(18.7)	(1.8)	(13.0)	(24.4)	(11.0)	33.1			
(就業形態)																
正社員	100.0	74.6 (100.0)	(45.0)	(25.4)	(26.7)	(22.7)	(37.7)	(21.3)	(3.4)	(8.8)	(23.3)	(11.5)	24.9			
契約社員	100.0	73.0 (100.0)	(47.0)	(39.2)	(19.6)	(3.5)	(31.3)	(8.5)	(8.2)	(32.1)	(38.8)	(5.8)	26.8			
パートタイム労働者	100.0	43.5 (100.0)	(31.7)	(26.9)	(23.4)	(12.2)	(32.0)	(26.6)	(1.6)	(8.6)	(8.4)	(7.9)	54.6			
派遣労働者	100.0	54.1 (100.0)	(31.3)	(18.1)	(36.9)	(5.7)	(22.7)	(9.4)	(1.5)	(54.7)	(5.5)	(15.0)	45.9			
令和5年 合計	100.0	82.7 (100.0)	(39.4)	(27.3)	(29.6)	(15.8)	(39.7)	(26.6)	(2.3)	(9.6)	(22.2)	(13.2)	16.7			

注：1) 「労働者計」には、強い不安、悩み、ストレスと感ずる事柄の有無不明が含まれる。  
 2) 令和6年は令和5年より趣旨明確化の観点から本設問の形式を変更したため、数値の比較には留意が必要である。詳細は調査の概要「9 調査結果利用上の注意」(4)参照。(2頁)  
 3) ( )は、「強い不安、悩み、ストレスと感ずる事柄がある」労働者を100とした割合である。  
 4) 「合計」には、「年齢階級」「性」「就業形態」の各区分の不明が含まれる。

出典 厚生労働省 令和6年 労働安全衛生調査（実態調査）結果の概要  
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/r06-46-50b.html>

- 問1 年齢階級が20～29歳の若年労働者は、他の年齢階級の労働者に比べてどのような特徴があるか。「図表から理解できること」について説明しなさい。(200字以内)
- 問2 もし、あなたが、20～29歳の若年労働者の職業ストレス対策を立案することになったら、どのような対策を提案するか説明せよ。なお、あなた個人の意見や感想ではなく、図表から読み取れる情報を踏まえながら、注目した問題点や、提案する取り組みの内容、それによって期待できる効果について具体的に客観的に述べること。(600字以内)

# ●併設校入試（専願） 2 次選考

## 【レポート課題】

あなたが住んでいる地域の自治体（市区町村）で実施されている「健康分野」や「スポーツ分野」に関する施策について、以下の2点を中心にまとめてください。

（1）健康またはスポーツ施策の現状（約 500 字）

自治体ホームページや公開されている計画文書（例：『基本構想』『総合計画』など）を参考に、現在どのような取り組みが行われているか、具体例も交えて説明してください。

（2）今後の課題（約 300 字）

現状を踏まえ、今後取り組むべき課題や改善点について、あなた自身の考えを述べてください。

# ● 出題意図

## 総合型選抜 9月入試 1次選考【出題意図】

---

昨今、AIの発展に伴い、「正解のない問い」を自ら立て、それを言語化する力の重要性が増している。本問は、厚生労働省が実施した「令和6年 労働安全衛生調査（実態調査）」の結果の一部を用いて、図表を正しく読解し、さらに設問の意図を理解した上で、それに則った解答を論理的に言語化できる能力を問うことを意図した出題である。

問1では、まず、図表を客観的かつ具体的に読み取り、理解できた点を正確に記述できることを確認する。問2では、問1の解答内容も踏まえながら、正解のない問いを立て、その改善方策について発散的に考えることを求める。ここでは、主観的な意見や感想にとどまらず、得られた情報やデータ（エビデンス）にしたがって検討することを重視しながら、自ら問題点を指摘し、対処方法の提案と期待される効果について具体的に述べることを通じ、問題解決的な思考力や論理的な説明力を問う。

## 総合型選抜 9月入試 2次選考【出題意図】

---

健康・スポーツ心理学科は、人や社会の「元気づくり（ウェルビーイングの向上）」に貢献する人材を育成する学科です。そのためには、自分の身近な地域における健康・スポーツ施策の現状と課題を的確に把握・分析する力、そして自ら気づき、考え、行動する姿勢が求められます。

本課題では、皆さんが地域社会で行われている健康やスポーツの取り組みについて調べ、現状を正しく捉え、自分なりの視点から課題や改善点を考えてもらいます。この経験を通じて、健康・スポーツ心理学科で学ぶために必要な「自ら気づき考える力」や「探究心」、そして社会の一員として主体的に課題解決へ取り組む姿勢が備わっているかを確認したいと考えています。

## 総合型選抜 10月入試【出題意図】

---

現代社会では、AIが知識の取得や思考の補助を果たす場面が増え、人々の学び方や働き方が変化している。このような状況下において人間が担うべき役割の一つは、正解のない問いに対して多角的にアプローチし、抽象的な理論を具体的な課題や状況に応用する能力を身に付けることであると考えられる。

大学教育では、学問を探究し、正解のない問いへの取り組み方を学ぶことが重要とされている。その際、「具体と抽象の往還」、つまり具体的な経験から抽象的な理論を導き、抽象的な知識を具体的な課題に応用する力を養うことが求められる。この能力は、社会的課題への洞察力や実践的な問題解決能力の基盤となり得るものでもある。

以上のことから、本設問では、「学び」と「勉強」というテーマを通じて、受験生がこれまでの学習経験を振り返りながら、それぞれが持つ目的や手段、本質的な意味や価値について具体的かつ論理的に記述する力を問う。この課題を通じて、受験生が抽象的な概念を深く掘り下げる能力、それを具体的な文脈で活用する能力、さらにはそれらを個人的な見解や社会的視点につなげ、それを適切に表現する能力を評価する。

## 総合型選抜 12月入試【出題意図】

---

本設問は、図を正しく読み取り、平均寿命と健康寿命の違いを理解した上で、それが示す社会的課題を論理的に考察する力を評価することが目的である。また、健康寿命を延ばすために個人及び社会が行うべき方策について、自らの考えを整理し構成できるかを測る問題である。

健康・スポーツ心理学科では、データを基に健康課題を分析し、健康支援に関する知識を実践的に応用する力が求められる。本設問では、図表の読み取り、課題の抽出、それらの改善に向けた具体的な提案へ至る思考プロセスを踏まえることが可能かを確認する。さらに、受講生の論理性、問題解決能力、表現力を総合的に評価することを意図している。

## 指定校推薦入試 1 期【出願意図】

---

本問題は、本学科の中心的な学びである健康心理学、およびスポーツ心理学が、人々の健康増進やスポーツパフォーマンス向上、ウェルビーイングの達成に向けて、心理学的な知見をどのように応用し、具体的な支援へと繋げられるかを考察する学問であることを踏まえ、作成した。特に、「データに基づいた客観的理解」「実践的な問題解決能力」「論理的なコミュニケーション能力」を総合的に評価することを目的としている。

健康心理学やスポーツ心理学の分野では、対象者の行動変容や心理状態を客観的に把握し、科学的根拠（エビデンス）に基づいた効果的な介入が求められる。そのためには、多角的な情報を正確に読み解き、その背景にある心理的要因や課題を深く考察し、具体的な支援策として提案する力が不可欠である。

## 指定校推薦入試 2 期【出願意図】

---

本設問は、指定校推薦によって合格する可能性が高い受験生の本学科進学を目的を確認することが目的であり、基本的な問題解決能力を問う。比較的簡単な設問ではあるが、大学進学に明確な目的を持っており、かつ自己分析によってその目標を達成するために4年間ですべきかを見出す力のない受験生には難問となることも予想される。受講生の論理性、問題解決能力、表現力を総合的に評価することを意図している。

昨今の面接では安易に「トレーナーになりたい」、「メンタルトレーナーになりたい」と発言する受験生が多い。しかし、入学後に面接で語った夢を叶えるために奮闘している学生は皆無である。おぼろげながらも、大学進学を目的を明確にして、具体的なプランを論理的な思考で展開する能力が求められる。図の左から右に流れる4年間で、自分の今の立ち位置から目標に向かってブラッシュアップしていくことイメージしてもらいたい。

## 併願型学校推薦入試 1 期【出題意図】

---

本問題は、本学科の中心的な学びである健康心理学、およびスポーツ心理学が、人々の健康増進やスポーツパフォーマンス向上、ウェルビーイングの達成に向けて、心理学的な知見をどのように応用し、具体的な支援へと繋げられるかを考察する学問であることを踏まえ、作成した。特に、「データに基づいた客観的理解」「実践的な問題解決能力」「論理的なコミュニケーション能力」を総合的に評価することを目的としている。

健康心理学やスポーツ心理学の分野では、対象者の行動変容や心理状態を客観的に把握し、科学的根拠（エビデンス）に基づいた効果的な介入が求められる。そのためには、多角的な情報を正確に読み解き、その背景にある心理的要因や課題を深く考察し、具体的な支援策として提案する力が不可欠である。

## 併願型学校推薦入試 2 期【出題意図】

---

本設問は、指定校推薦によって合格する可能性が高い受験生の本学科進学を目的を確認することが目的であり、基本的な問題解決能力を問う。比較的簡単な設問ではあるが、大学進学に明確な目的を持っており、かつ自己分析によってその目標を達成するために4年間ですべきかを見出す力のない受験生には難問となることも予想される。受講生の論理性、問題解決能力、表現力を総合的に評価することを意図している。

昨今の面接では安易に「トレーナーになりたい」、「メンタルトレーナーになりたい」と発言する受験生が多い。しかし、入学後に面接で語った夢を叶えるために奮闘している学生は皆無である。おぼろげながらも、大学進学を目的を明確にして、具体的なプランを論理的な思考で展開する能力が求められる。図の左から右に流れる4年間で、自分の今の立ち位置から目標に向かってブラッシュアップしていくことイメージしてもらいたい。

## スポーツ特待生入試【出題意図】

---

本問題の主題は、大学でスポーツに取り組む意義を、単なる競技経験の延長としてではなく、学問的・多面的に捉え直す姿勢を備えた受験生を選抜することである。課題文では、競技者が抱きがちな「努力すれば必ず伸びる」「集中すればパフォーマンスが上がる」といった素朴な思い込みを取り上げ、それらが科学的知見によって修正され得ることを示している。また、競技中心の生活に偏りがちな大学生アスリートの現状を踏まえ、学業との両立や生活管理、倫理的視点の重要性も問うている。本設問では、まず課題文の要点を適切に把握できるかを確認し、そのうえで、自らの経験や価値観を整理し、大学でスポーツを学ぶ姿勢について論理的に述べる力を測る。これにより、思考の柔軟性、自己省察、学びへの主体性を備えた受験生を評価することを目的としている。

## 併設校入試（専願）1次選考【出題意図】

---

昨今、AIの発展に伴い、「正答のない問い」を自ら立て、それを言語化する力の重要性が増している。本問は、厚生労働省が実施した「令和6年 労働安全衛生調査（実態調査）」の結果の一部を用いて、図表を正しく読解し、さらに設問の意図を理解した上で、それに則った解答を論理的に言語化できる能力を問うことを意図した出題である。

問1では、まず、図表を客観的かつ具体的に読み取り、理解できた点を正確に記述できることを確認する。問2では、問1の解答内容も踏まえながら、正解のない問いを立て、その改善方策について発散的に考えることを求める。ここでは、主観的な意見や感想にとどまらず、得られた情報やデータ（エビデンス）にしたがって検討することを重視しながら、自ら問題点を指摘し、対処方法の提案と期待される効果について具体的に述べることを通じ、問題解決的な思考力や論理的な説明力を問う。

## 併設校入試（専願）2次選考 レポート課題【出題意図】

---

健康・スポーツ心理学科は、人や社会の「元気づくり（ウェルビーイングの向上）」に貢献する人材を育成する学科です。そのためには、自分の身近な地域における健康・スポーツ施策の現状と課題を的確に把握・分析する力、そして自ら気づき、考え、行動する姿勢が求められます。

本課題では、皆さんが地域社会で行われている健康やスポーツの取り組みについて調べ、現状を正しく捉え、自分なりの視点から課題や改善点を考えてもらいます。この経験を通じて、健康・スポーツ心理学科で学ぶために必要な「自ら気づき考える力」や「探究心」、そして社会の一員として主体的に課題解決へ取り組む姿勢が備わっているかを確認したいと考えています。